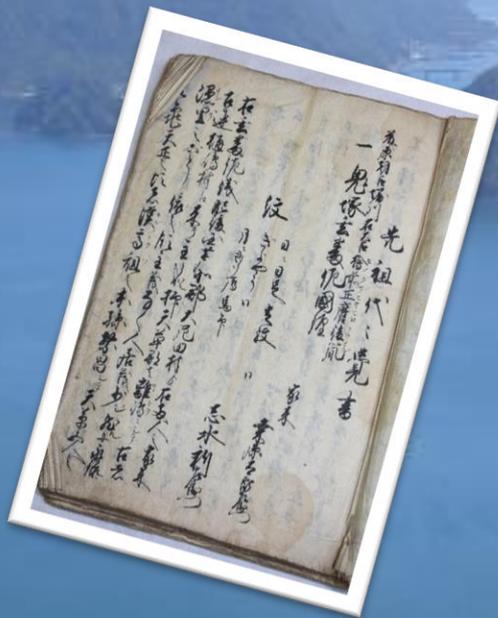


上天草市の文化財





もくじ

I. 発刊の言葉	1
II. 文化財とは何か	2
III. 指定文化財の紹介	
千巖山	3
高舞登山	4
龍ヶ岳	5
長砂連古墳	6
大戸鼻古墳群	7
永目神社のアコウ	8
大矢野城址	9
五輪塔	10
千崎古墳群	11
涼泉院殿月江宗白居士塚	12
キリシタン墓碑	13
島原の乱時の鍛冶水盤	14
佐藤家文書	15
山崎信一氏所蔵文書	16
山崎治千斗氏所蔵文書	17
布目瓦	18
松菊双鶴鏡 附（漆塗り木箱付き）	19
遍照院銅造梵鐘	20
隠れキリシタン墓碑	21
関戸家の井戸石蓋	22
値賀孫左衛門追遠之碑	23
佐藤家墓碑群	24
澄泉寺五輪の塔群	25
菅原神社万治元年棟札	26
向陽寺雨乞いの鐘	27
阿村がたきり踊り	28
合津神社獅子舞	29

菅原神社神楽太鼓踊り	30
祝口観音の滝	31
御手水の滝	32
諏訪神社の大杉	33
野々川のもちの木	34
不知火塚（白縫塚）	35
二間戸小学校跡地のイチヨウ	36
山田のたちばな	37
開山塔	38
大迫山棒踊り	39
小屋川内獅子舞	40
山神の一本杉	41
大庄屋吉田家文書	42

IV. 指定されていない文化財

広浦古墳	43
小波戸遺跡	43
いっちょ墓	44
天草砥石	44
だご石	45
孝子喜左衛門の碑	45
内野河内城跡	46
横道の五輪塔群	46
二間戸城跡	47
白岳湿地	47
姫戸町出土の磨製石斧	48
石灰窯	48
殿の墓	49
樋島のアンモナイト化石	49
藤田家文書	50
観乗寺	50



発刊のことば

上天草市は、平成16年3月31日に天草郡大矢野町、松島町、姫戸町、龍ヶ岳町の四町が合併し誕生いたしました。

本市は、熊本県西部、有明海と八代海が接する天草地域の玄関口に位置し、大矢野島、天草上島、その他の島々から構成された「内島多島海」とも呼ばれる特徴的な地形です。大矢野島から天草上島にかけてのその地形は「天草松島」として親しまれており、高舞登山から白嶽、龍ヶ岳等の山々は、九州自然歩道でつながれており風光明媚な自然に恵まれています。

市内には、縄文時代の遺跡や装飾古墳、鎌倉時代の元寇で活躍した大矢野氏の城跡や寛永16(1637)年に勃発した島原天草一揆関連の資料、その後におかれた大庄屋に関する古文書群など様々な文化財があります。

本書は、平成18年に刊行した「上天草市の文化財」を基本とし、上天草市の歴史や文化に触れることができる文化財を掲載しております。今回は、新たに判明した点などについて資料に基づき解説文の補足や再構成を行いました。本書が市民の皆さまの郷土の歴史や文化の学習、ならびに文化財の保護や継承への一助となれば幸いです。

令和3年7月22日

上天草市教育長 高倉 利孝

文化財(ぶんかざい)って何だろう？

文化財は、人類の長い歴史の中で人によって生み出された歴史的・文化的に重要なもの、貴重な生態系や自然で保護するべきものを指す言葉です。そして、文化財は形のあるものとないものの2種類に分けられます。

たとえば、絵や彫刻などの芸術品や城跡や古墳などの人が暮らした跡や作ったもの、古文書のように昔の人が書いた手紙や本など手に取れるものが形のある文化財。「有形文化財」といいます。また、歌や楽曲などの音楽、お祭りや踊り、伝統工芸品を作る技術など目には見えるけど形がないものを「無形文化財」といいます。

学校の授業やニュースなどで「重要文化財」や「国宝」という言葉を聞いたことがあると思います。「重要文化財」は「有形文化財」の中でも、特に価値の高いものを指す言葉です。なので、それだけ丁寧に扱わなければなりません。それ以上に重要で全世界にとっても貴重だと思われるものが「国宝」に指定されます。国の宝ですから、博物館など展示する期間も短いので本物の国宝を見ることが出来る機会はとて最少です。

では、「無形文化財」の中で重要なものは何なのでしょう。「無形文化財」の中で特に重要なものは「重要無形文化財」といいます。その中で、「重要無形文化財」に指定された技術を持っている人を「人間国宝」といいます。このような「重要無形文化財」を伝承している人や団体は国から保護や支援を受けています。

「国宝」や「人間国宝」など私たちが知らず知らずのうちに聞いている言葉は文化財に関する言葉なのです。長い歴史の中で私たちのご先祖様から受け継いだ宝物、それが文化財です。私たちには遠いようで実は身近な存在なのです。

これから、僕と仲間たちが
上天草市の文化財を紹介するね



上天草四郎くん



千巖山からの景色



遠くから見た千巖山（中央）

せんがんざん 千巖山

（松島町合津 昭和10年指定 国指定名勝）

千巖山「せんがんざん」は標高162mの松島町合津にある山です。以前は、天草四郎の出陣のお祝いに杓子でお酒を注いで宴を開いた伝説から手杓子（てじゃくし、てびやくし）山という名前でした。昭和初期に頂上のあたりに大きな岩塊などの奇岩（変わった形をした岩）が多くあったことから、千巖山と名付けられました。山頂や展望所からは天草五橋や宇土半島、大矢野島の島々や、遠くには雲仙や島原も一望できます。天草上島から大矢野島にかけての、穏やかな海に松の生えた小島が連なる美しい景色が、宮城県にある松島に勝るとも劣らないものであることから、「天草松島」という言葉が生まれたと伝わっています。



上天草 四郎くん

展望台から見える景色もきれいだけど、
山の頂上からの景色もきれいだよ



高舞登山からの景色



遠くから見た高舞登山（中央）

たかぶとやま 高舞登山

（松島町阿村 昭和10年指定 国指定名勝）

高舞登山「たかぶとやま」は標高117mの松島町阿村にある山です。元は高太山と呼ばれていましたが、龍 駿介※という画家が「戦国時代の武将が頂上で舞（踊り）を楽しんだ」という伝説から、高舞登山と名付けました。

西には松島の島々、東には八代海、北には天草五橋と大矢野島などの島々、雲仙までも一望できます。展望台はパノラマのように 360 度どこからでも景色を楽しめるようになっています。千巖山とは異なる視点から、天草松島の島々や遠くの山と海を見渡すことができます。上天草市のもう1つの国指定名勝である龍ヶ岳と高舞登山の間には山々が連なっており、観海アルプスと呼ばれており、九州自然歩道によって結ばれています。

（※龍 駿介の本名は龍 清六といいます）



ピース

じろうまるたけ しらたけ ねんじゆたけ れんぞく
次郎丸嶽や白嶽、念珠岳などの連続した
やまやま かんかい よ
上天草市の山々を観海アルプスと呼ぶんだよ。



龍ヶ岳からの景色



遠くから見た龍ヶ岳（中央）

りゅうがたけ
龍ヶ岳

（龍ヶ岳町大道 昭和11年指定 国指定名勝）

龍ヶ岳<<りゅうがたけ>>は標高460mの龍ヶ岳町大道にある山です。町の名前の由来にもなりました。山頂は大きな岩が露出しているため、景色を見るのに邪魔になりません。展望台からは、東は樋島、南は御所浦を望め、天気が良く、空気が澄んでいる日には鹿児島や阿蘇の山々見ることもできます。山頂周辺にはにはミュージア天文台やキャンプ場があり、景色や星空、アウトドアを楽しむことができます。

元は「寿ヶ岳」と呼ばれていましたが、後に龍神が宿る山として龍ヶ岳と呼ばれるようになりました。また、下から見上げたときの龍ヶ岳は富士山の形に似ていることから、別名 天草富士とも呼ばれ多くの人々に親しまれています。



スター

ミュージア天文台の名前は、方言で「見る」という意味の言葉から名付けられたんだよ。



南古墳の円文



大戸鼻中古墳

おおとばなこふんぐん 大戸鼻古墳群

(松島町阿村 昭和46年指定 県指定史跡)

大戸鼻古墳群「おおとばなこふんぐん」は、松島町阿村の大戸岬に造られた古墳群です。北古墳、中古墳、南古墳、南箱式石棺の4基の古墳を見ることができます。北古墳と南古墳は、装飾古墳としても知られていて、古墳の中には円文と呼ばれる丸い形の紋様があります。これは鏡に似せて作られた紋様だと考えられています。大戸鼻北古墳は5世紀前半、南古墳は5世紀後半に造られたと考えられています。

現在、保存上の問題から北古墳と南古墳の公開は行っていません。



菜の花子

装飾は副葬品(亡くなった人と一緒に埋葬する物)の
のかわりであるという説もあるよ



直弧文



外から見た長砂連古墳

ながされこふん 長砂連古墳

(大矢野町中 昭和50年指定 県指定史跡)

長砂連古墳「ながされこふん」は、大矢野町中にある^{そうしよくこふん}装飾古墳です。1934年に^{こんびらくう}金毘羅宮の^{けんせつこうじ}建設工事の際に発見されました。1975年に古墳を保護するために、^{てっしん}鉄筋コンクリートで^{せきざい}石材を^{ほご}保護する^{ふや}部屋を^{つく}作り、その上から^{いし}石を^つ積み上げて^{つち}土を^も盛り、^{えんぶん}円墳のように^{せいけい}成型して^{げんざい}現在の^{すがた}姿に^{ふくげん}復元されました。使われている^{つか}石材の一部には^{せきざい}宇土半島で^{いちぶ}産出する^{いろ}ピンク色の^{せきざい}石材が^{しやう}使用されています。古墳からは、^{てっせい}鉄製の^{ほこ}銚や^{かたな}刀の^{はへん}破片や^{どき}土器の^{はへん}破片が10点見つかっています。

古墳の石材には^く組みひもを^{かんが}モデルにしたと^{ちやくこもん}考えられている^{えんもん}直弧文や^{かたなか}円文、^も刀掛けを^も模した^{とつき}突起などが^{そうしよく}装飾されており、^{せきしよくがんにりやう}赤色顔料が^{せきざい}塗られていた^{ちやくこもん}痕跡も^{えんもん}確認できます。これらのことから、古墳が^{つく}造られたのは^{せいき}5世紀ごろだと^{ちやくこもん}考えられています。



車えび吉

岡山県の^{おやまけん}千足古墳には^{せんそくこふん}上天草市の^{せきざい}石材に
同じような^{おな}直弧文が^{ちやくこもん}刻まれているんだよ



アコウの木



永目神社

ながめじんじや 永目神社のアコウ

(姫戸町姫浦 平成8年指定 県指定天然記念物)

永目神社のアコウ《ながめじんじやのあこう》は、日本で3番目に太い幹を持つアコウの木です。アコウはバラ目クワ科イチジク属の植物で、海に近い場所を好みます。樹齡は約300年といわれており、高さ約15m、幹の太さは11.2mです。このアコウの木は、永目神社の御神木として地域の人々に愛されています。

この樹は、島原天草一揆とほぼ同時代から生きているといわれている貴重な古木でもありません。このアコウは4月と10月の2回、1ヶ月にわたって落葉します。その後は、新芽がすぐに生え始めるそうです。



ガザミル

アコウなどのイチジク属に属する樹木は岩や他の植物に絡みついて成長するんだって



大矢野城址の石碑



遠くから見た大矢野城址

おおやのじょうし
大矢野城址

(大矢野町中 昭和52年指定 市指定史跡)

大矢野城址「おおやのじょうし」は、大矢野町中にある、かつて上天草市^{いったい しはい}を支配していた大矢野氏^おと呼ばれる一族^{いちぞく}の住^すんでいた城跡^{しるあと}です。大矢野氏は鎌倉時代^{かまくら}にあった元寇^{げんこう}と呼ばれる元^{げん}という国との戦争で活躍^{かつやく}した大矢野三兄弟^{おおやのさんきょうだい}が有名です。その大矢野三兄弟を顕彰^{けんしょう}する石碑^{せきひ}が昭和に建^たてられています。大矢野城の範囲^{はんい}は、現在の^{げんざい}大矢野中学校^{おおやのちゅうがっこう}の範囲^{はんい}とほぼ同じ^{おなじ}と考え^{かんが}られています。

島原天草一揆^{しまばらあまくさい}のとき、一揆軍^{いっぎぐん}が立てこもろうとしましたが、島原^{しまばら}の原城^{はらじょう}が拠点^{きょてん}となつたため、そのまま一揆軍は原城^{むか}に向^{むか}うことになりました。その後、細川軍^{ほそかわ}によって大矢野城^{はかい}は破壊^{はかい}されてしまったようです。



パール

もうこしゅうらいえことば おおやのさんきょうだいの
蒙古襲来絵詞に大矢野三兄弟の
活躍^{かつやく}が描^かかれているよ



正面から見た五輪塔（後ろ）



五輪塔

ごりんとう 五輪塔

（大矢野町中 昭和52年指定 市指定建造物）

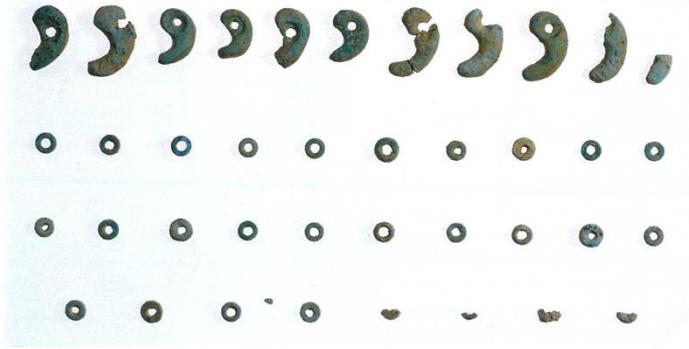
五輪塔「ごりんとう」は、大矢野町中にある大矢野氏かんれんに関連があると考かんがえられている全ぜん6基きの五輪塔です。大矢野氏の住んでいた城跡の大矢野城址しろあと おおやのじょうし しゅうへんの周辺で発見されました。昭和52年に現在の位置しょうわ げんざい いち いどうに移動されました。

五輪塔は仏教ぶつぎょうの教えの1つである密教みつきょうの影響えいぎょうを受けているお墓はかや供養塔くようとうの一種です。供養くようとは、仏さまに心からお供えおしえをする儀式ぎしきのことです。そのために使用しようするので、生きていきている人のために五輪塔を建てることがあります。上から空輪くうりん、風輪ふうりん、火輪かりん、水輪すいりん、地輪ちりんの順番じゆんばんで積つんであります。仏教においては宇宙うちゅうを作つくっている要素ようそは空風火水地くうかぜひみずちの5つと考かんがえられており、五輪塔はその考かんがえを表あらわしています。



五橋博士

くう こくう せかい
空は虚空という世界のことで
なに ぶつぎょう しんり
何もない仏教の真理の世界のことなんだよ



出土した勾玉

『上天草市史大矢野町編 1 上天草
いにしへの暮らしと古墳』より抜粋



千崎古墳群の様子

せんざきこふんぐん 千崎古墳群

(大矢野町維和 昭和52年指定 市指定史跡)

千崎古墳群「せんざきこふんぐん」は、大矢野町維和にある古墳群です。維和島の北に位置する千崎の丘陵にあり26基の古墳が確認されています。上天草市では最も大きな規模の古墳群で、箱式石棺という石を箱のように組み合わせて造った棺の古墳や、石室墓という石を積み重ねるなどして部屋を造った古墳が残っています。古墳からは人の骨や勾玉、鉄製のミニチュアの農具など様々な遺物が見つかっています。

耕せる土地の限られた当時の上天草地方では、生活の中心が海であり、古墳も海を見渡せるように造られたと考えられています。古代の上天草地方を知るための貴重な古墳群です。

けんがく
見学するときは、こふん
の石に
さわったり乗ったりしないでね



上天草四郎くん



現在の安置所

(左側が涼泉院殿月江宗伯居士塚)



涼泉院殿江宋白居士塚

りょうせんいんでんげっこうそうはくこじづか 涼泉院殿月江宋白居士塚

(大矢野町湯島 昭和52年指定 市指定建造物)

涼泉院殿月江宋白居士塚「りょうせんいんでんげっこうそうはくこじづか」は大矢野町湯島にある有馬純美の墓と伝わっている石碑です。純美は、肥前国(現在の長崎県)の戦国大名で、江戸時代には日野江藩の大名となるの有馬晴信の弟です。

『藤原有馬世譜』という有馬家のことを記した記録によると、戦国時代に純美はなんらかの問題を起こし、その罪で兄の晴信によって湯島に追放され、その後、誅殺(罪のある人を殺してしまうこと)されたと記されています。当時の湯島に有馬晴信の勢力が及んでいたことがうかがえます。



日野江藩は後に島原藩という名前に変わるよ。

上天草 四郎くん



カマボコ型の切支丹墓碑

平型の切支丹墓碑

きりしたんぼひ
切支丹墓碑

(カマボコ型：大矢野町湯島 昭和52年指定 市指定歴史資料)

(平型：大矢野町湯島 昭和63年指定 市指定歴史資料)

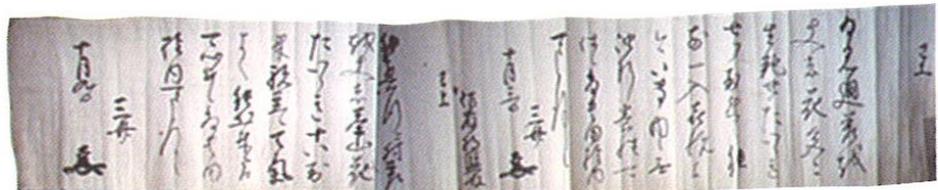
切支丹墓碑「きりしたんぼひ」は大矢野町湯島にあるキリスト教の様式のお墓です。これらの墓碑は表面に千十字と呼ばれる十字架が彫られていることから、キリスト教が禁止される前に造られたと考えられています。カマボコ型のお墓は、1973年に現在の場所に保護するために移動されました。

戦国時代には日本人の中にもキリスト教を信じている人がいました。当時の湯島にもキリスト教の教えを信じる人がいたことを示すのがこれらの墓碑です。

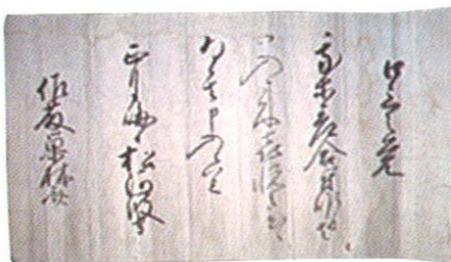
江戸時代にはキリスト教は禁止されるよ
それが島原天草一揆の原因の1つになったんだ



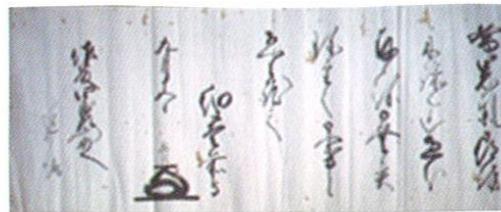
天草四郎ミュージアム



細川三斎書状



松平阿波守書状



細川豊前守興周書状

さとうけもんじょ 佐藤家文書

(大矢野町登立 平成16年指定 市指定古文書)

佐藤家文書《さとうけもんじょ》は、江戸時代に上天草の登立村に住んでいた佐藤氏が肥後藩の細川氏や当時、天草を預地として治めていた島原藩の松平氏とやりとりした全16通の江戸時代の古文書です。

佐藤氏は紀伊(現在の和歌山県周辺)出身で、宇土細川家に仕えた武士であり、細川家とやりとりした文書が多く残っています。宇土藩は肥後藩の細川家から分かれた支藩です。佐藤家文書の内容はお祝いの手紙やお礼状などで、機会があれば連絡を取り合う関係であったことを知ることができます。この文書の存在によって、天草の大矢野に住んだ武士の佐藤家が熊本の細川家や島原の松平氏と交流があったことを知ることができます。

天草は天領(江戸幕府の領地)だったけど、
細川氏の影響力もあったんだね。



シオマネキン(メス)



鍛冶水盤と神社入口



近くから見た鍛冶水盤

しまばら らんじ かじすいばん 島原の乱時の鍛冶水盤

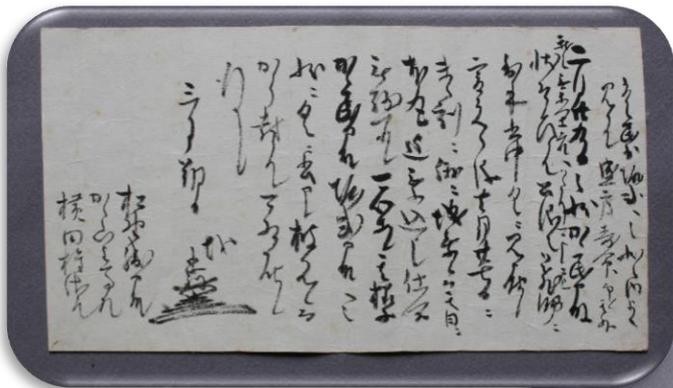
(大矢野町湯島 昭和52年指定 市指定歴史資料)

島原の乱の時の鍛冶水盤「しまばらのらんじのかじすいばん」は約380年前に起きた島原
あまくさいつき さい ぶき せいさく つか つた
 天草一揆の際に、武器の制作に使われたと伝えられている鍛冶水盤です。湯島には天草の
むらむら ゆうりよくしゃ しゅうごう いっき はな あ だんごう
 村々の有力者が集合し、一揆のことについて話し合い(談合)、そのための武器を制作していた
 と伝えられています。この鍛冶水盤は、湯島の峰地区で発見されました。その後、一度湯島の
そと も だ しょうわ ゆしま しょうちゅうがっこう こうちょうせんせいかた じんりよく
 外に持ち出されていましたが、昭和8年に湯島の小中学校の校長先生方の尽力によって、
す わじんじゃ けいだい あんち
 諏訪神社の境内に安置されました。

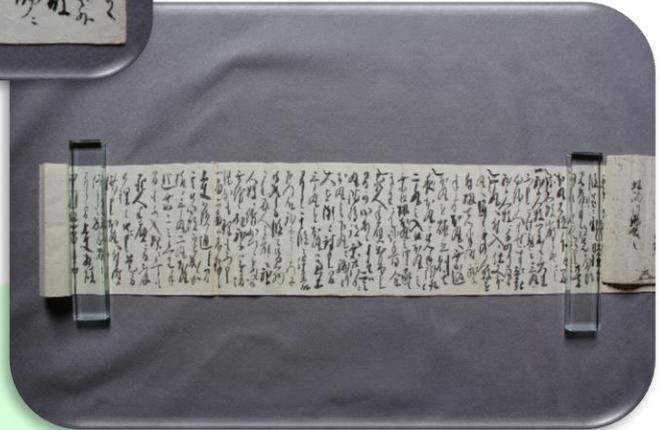


シオマネキン(オス)

かたな が ぶき ぼっしゅう せいさく
 刀狩りという武器を没収する政策があったけど
がいじゆう か ぶき しよじ ゆる
 害獣を狩るための武器の所持は許されんたんだ
いっき てっぽう つか
 だから、一揆のときには鉄炮を使えたんだね



原城総攻撃に関する文書



四郎の首を取ったことを報告する文書

やまさきしんいち ししよぞうもんじょ 山崎信一氏所蔵文書

(大矢野町上 平成16年指定 市指定古文書)

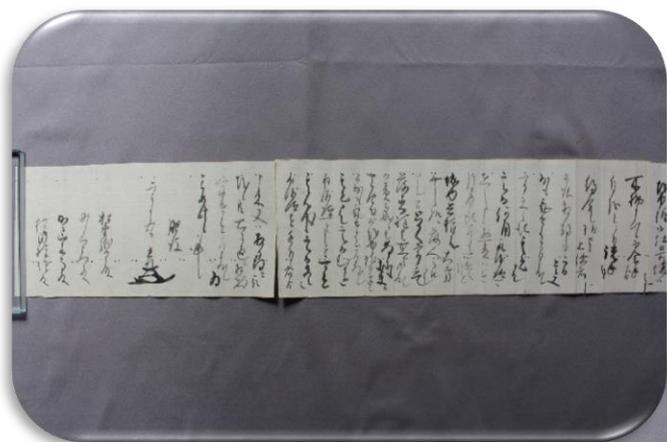
山崎信一氏所蔵文書「やまさきしんいちししよぞうもんじょ」は、山崎信一氏が所蔵している島原天草一揆の際に細川忠利、光利、立孝(当時は立允と名乗っていた)が送った全13通の書状です。一揆の様子を記録した貴重な歴史的資料です。この古文書には、原城総攻撃のときに天草四郎の住んでいた場所を出火させたことや、四郎の首を取ったことが書かれています。

やり取りしている相手は、主に肥後(熊本)や江戸にいる細川氏の部下です。島原天草一揆は1月であったこともあり、年末の行事に関する内容の書状も含まれています。

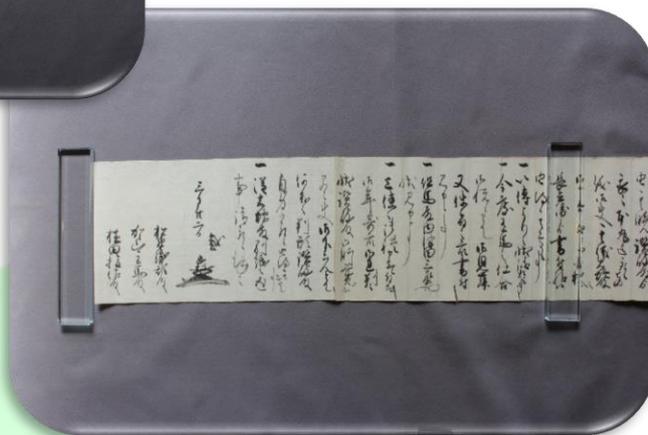
しまばらあまくさいつき お
島原天草一揆が起こっていた当時は
なんかい てがみ
何回も手紙でやりとりしていたんだね



天草四郎ミュージアム



一揆勢の食糧が少ないことを
報告する書状



原城の落城を伝える書状

やま さ き や ち と し し ょ ぞ う も ん じ ょ 山崎治千斗氏所蔵文書

(大矢野町上 平成16年指定 市指定古文書)

山崎治千斗氏所蔵文書《やまさきやちとししよぞうもんじよ》は、山崎治千斗氏が所蔵している島原天草一揆の際にやり取りされた当時の報告書です。全2通であり、原城に籠城(お城に立てこもること)していた一揆勢の兵糧(合戦の際に用意される兵士の食料)が少なくなっていることを報告しているものと原城の落城(お城が攻められて戦いに負けること)を伝える書状です。

島原天草一揆の際の幕府側がどのような情報を持っていたのか、伝え合っていたのかを詳しく貴重な歴史的な資料です。



車えび吉

らくじょうまえ はらじょう しよくりよう ひじょう すく
落城前の原城の食料は非常に少なかったよ
まわりのうみからかいそうなどをとって食べていたんだって



布目・タタキ目のある瓦



鴻臚館（こうろかん）式の瓦

ぬのめかわら 布目瓦

（大矢野町上 平成16年指定 市指定歴史資料）

布目瓦「ぬのめかわら」は大矢野島と維和島の間にある^{はげじまいせき} 禿島遺跡^{さいしゆ}で採取された、^{こだい} 古代～^{ちゆうせい} 中世の瓦3点です。表面に布の模様がついているところから名付けられました。布の模様がついた原因は、^{げんいん} 型に布をしいてその上^{ねんど} に粘土を置いて形^{かたち} をつくり、^{なまがわ} 生乾きにして取り出していたからであると考えられています。これにより型に粘土がくっつかずに、^{いちど} 一度にたくさんの瓦ができるようになりました。また、^{めよ} タタキ目と呼ばれる模様がついており、瓦を作るときに^{たた} 叩いて固めたため模様がついています。

布目瓦の中には、^{ふくおかけん} 福岡県の^{こうろかん} 鴻臚館という^{かいがい} 海外からの^{らいきやくしゃ} 来客者を迎えるための^{むか} 施設で使われていた瓦と同じ形^{かたち} の瓦が含まれています。そのような瓦がなぜ^{さいしゆ} 禿島遺跡から採取された理由は不明ですが、^{ふめい} 船で瓦を運んでいた際に瓦を海中^{はこ} に落したことが原因ではないかと考えられています。^{ふきん} 禿島遺跡付近が当時の海上交通の^{かいじょうこうつう} 通り道であった可能性を示しています。



上天草 四郎くん

国分寺などのお寺が全国的につくられたときに、^{ぬのめかわら} 布目瓦は使われたんだって



しょうきくそうかくきょう うるしぬ きばこつき
松菊双鶴鏡 (漆塗り木箱附)

(大矢野町上 平成16年指定 市指定工芸品)

松菊双鶴鏡 (漆塗り木箱付) «しょうきくそうかくきょう(うるしぬりきばこつき)»とは、
 おおやのじょう ふきん はっけん へいあんじだい かまくらじだい さくせい どうきょう かがみ
 大矢野城跡付近から発見されたと伝わる、平安時代～鎌倉時代に作成された銅鏡です。鏡の
 ちよっけい きばこ うら そうしよく まつ きく つる かめ
 直径は9.7cm、木箱の直径は11.1cmです。鏡の裏には、装飾として松や菊、鶴や亀などの
 どうしよくがつ もよう うら ぼ うるしぬ おさ
 動植物の模様が浮き彫りにされています。この鏡は漆塗りの木箱に収められています。鏡が収
 められていた木箱には何回も漆が塗られています。

おおやのじょうふきん はっけん かんけい かんが
 大矢野城付近から発見されたので、城主の大矢野氏と関係があると考えられています。



上天草 四郎くん

おおやのし ちほう きよてん ごうぞく
 大矢野氏は上天草地方に拠点を置いた豪族で
 げんこう かつやく
 元寇のときに活躍したんだよ



梵鐘に刻まれた文字



梵鐘と槿木（しゅもく）

へんじょういんどうぞうぼんしょう 遍照院銅造梵鐘

(大矢野町上 平成16年指定 市指定工芸品)

遍照院銅造梵鐘「へんじょういんどうぞうぼんしょう」は、大矢野町上にある遍照院にある梵鐘（お寺の鐘）です。島原天草一揆の後に天草を復興させるために当時の代官であった鈴木重成が、天草内にキリシタンがいなくなるようにお寺を建てさせました。そのときに、遍照院も正保3(1646)年に建てられました。

梵鐘を作った人は肥前国（現在の佐賀県・長崎県周辺）の谷口安左衛門兼清という鋳物師で、鐘に刻まれた文字から宝永6(1709)年に作られたことが分かっています



ピース

たいへいようせんそう
太平洋戦争のときに
きんぞく
金属として溶かされそうになったけれど
とうじ
当時の住職さんの
どりよく
努力で
まも
護られたんだ



墓の下の干十字



キリシタン墓碑

かく ぼひ 隠れキリシタン墓碑

(大矢野町登立 平成16年指定 市指定建造物)

隠れキリシタン墓碑「かくれきりしたんぼひ」は、大矢野町登立にある潜伏キリシタンの墓3基のことです。江戸時代、キリスト教の信仰は禁じられ、キリシタンは厳しく取りしまられました。しかし、キリスト教を信仰する人々は、信仰や信仰に関する物を幕府の役人たちから隠し、表立っては仏教や神道を信じて(潜伏)、信仰を護るために様々な方法で信仰を伝えていました。この墓はそういった潜伏キリシタンのお墓であると考えられています。その特徴は、普段は見えない場所に隠すように、干十字と呼ばれる十字架が彫られています。

このお墓の干十字は、昭和45年に子孫の方がお墓の手直しを行った際に発見されました。天草では子孫まで判明している潜伏キリシタンのお墓は珍しく、島原天草一揆の後に、大矢野に潜伏キリシタンがいたことを示す貴重な歴史的資料です。



シオマネキン(メス)

キリスト教の禁止は明治6年まで続いたよ



関戸家の井戸



「元和八(1622)年三月」の文字

せきどけ いどいしぶた 関戸家の井戸石蓋

(大矢野町維和 平成16年指定 市指定歴史資料)

関戸家の井戸石蓋「せきどけのいどいしぶた」は、大矢野町維和にある関戸家に伝わる井戸の蓋とされる石材です。石蓋には「元和八年三月」という約380年以上前の年号の文字が刻まれています。

島原天草一揆の際に取り調べを受けた蔵々集落の役人である関戸空右衛門という人物と関わりがある可能性が高いと考えられています。取り調べでは、湯島でキリシタンが談合したことなどを証言しています。



菜の花子

この井戸で天草四郎の産湯を
くんだという伝説があるんだよ



値賀孫左衛門追遠の碑



値賀氏墓碑群

ちがまござえもんついえんのひ 値賀孫左衛門追遠の碑

(大矢野町上 平成16年指定 市指定建造物)

値賀孫左衛門追遠の碑「ちがまござえもんついえんのひ」は大矢野町上の値賀家墓碑群の中にある石碑です。値賀氏の先祖は佐賀県唐津市付近の領主で、豊臣秀吉から朱印状(赤い印が押された公的な書状)を受けて支配を認められるほどの武家でした。寺澤氏が唐津と天草を支配してからは、寺沢氏に仕え、島原天草一揆で活躍し、その後は天草に居住しました。

追遠の碑は、値賀氏の子孫が大正11年に祖先の300年の祭典を行った際に建立した物です。値賀氏の出自や業績などを史実に基づいて書いているため、史料的にも大変貴重なものです。値賀氏の子孫は大矢野だけではなく、熊本県議会議員になるなど幅広く活躍しました。

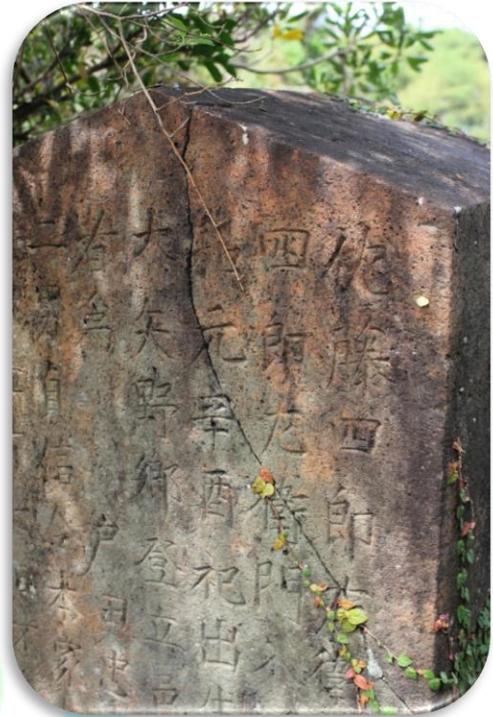
ちがし しそん きょういく ちから つ
値賀氏の子孫は天草の教育に力を尽くし、
くまもとけんぎかいぎいん ぎちやう
熊本県議会議員、議長にまでなっているんだよ



ガザミル



代々の佐藤家の墓



碑文のある墓碑

さとうけぼひぐん
佐藤家墓碑群

(大矢野町登立 平成16年指定 市指定建造物)

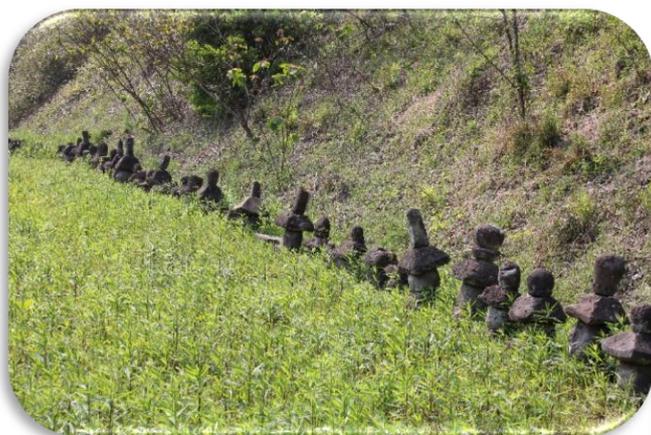
佐藤家墓碑群「さとうけぼひぐん」は、大矢野町登立にある大矢野の名門の武士の家である佐藤家の墓です。佐藤四郎右衛門貞清やその息子である貞尚、貞明兄弟の墓などを含めた全体で25基確認されています。墓の碑文には、佐藤家の出自に関するものや大矢野の干拓(海を埋め立てて地面をひろげること)事業に関するものがあり、貴重な歴史資料です。

佐藤家は海面干潟を切りという干拓によって、新しい水田を築いていきました。お墓には弔われた人の伝記が書かれており、その中には「亀の迫で干拓をして新しい水田をつつた」ことも書かれています。江戸時代に天草では盛んに干拓が行われますが、佐藤家はその干拓に深く関わっていたことが、お墓から知ることができます。江戸時代初めの干拓に関する資料は少なく、佐藤家墓碑群は天草の歴史にとっても重要な文化財です。



車えび吉

天草には田にできる土地が少ないから
江戸時代には干拓が多く行われたんだよ



澄泉寺五輪の塔群



別角度

ちようせんじあごりんとうぐん 澄泉寺跡五輪の塔群

(松島町教良木 昭和60年指定 市指定建造物)

澄泉寺跡五輪の塔群「ちようせんじあごりんとうぐん」は、松島町教良木にある約60基の五輪塔(仏教の儀式で作られた塔)です。昭和45年8月に澄泉寺の跡から発見されました。澄泉寺は教良木にあったとされる教良木城の菩提寺(先祖の墓があり一族の葬式や儀式を行うお寺)であったと考えられているため、この五輪の塔群は教良木城主の一族と関わりがあると考えられています。

また、発見された五輪塔の中には一つの石で作られた一石五輪塔と呼ばれる物があり、熊本県下では非常に珍しい物です。

ちようせんじ ぼしよ
もともと澄泉寺があった場所には
すがわらしんじや た
菅原神社が建っているよ



上天草 四郎くん

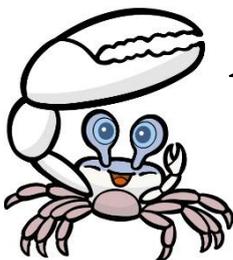


すがわらじんじやまんじがねんむなふだ 菅原神社万治元年棟札

(松島町教良木 昭和60年指定 市指定歴史資料)

菅原神社万治元年棟札「すがわらじんじやまんじがねんむなふだ」は、松島町教良木の菅原神社にあった神社の成り立ちを書いた棟札です。棟札とは、建築や修築の際に記念として建物の高い場所に取り付けられる札のことです。

菅原神社の棟札は、万治元年(1658)に菅原神社の御神殿を建立した際のこと書かれています。島原天草一揆の後、天草代官 鈴木重成による復興のための政策の1つとしてキリスト教の影響を減らすために、寺社の再興事業がありました。菅原神社はその一環として、教良木にあった澄泉寺というお寺の跡地に建立されました。



シオマネキン(オス)

すがわらじんじや すがわらのみちざねこう
菅原神社は菅原道真公をまつっている
のうぎょう がくもん かみさま じんじや
農業や学問などの神様のための神社だよ



向陽寺



雨乞いの鐘

向陽寺雨乞いの鐘

(松島町合津 昭和60年指定 市指定工芸品)

向陽寺雨乞いの鐘「こうようじあまごいのかね」は、松島町合津こうようじ しょうじょうの向陽寺が所蔵する半鐘はんしやう（小さな釣り鐘）です。昭和53年に永浦島の海岸で発見されました。江戸時代の二代目住職にだいめじゆうしやくのときときに作られた半鐘だと考えられています。作った人は、肥前国ひぜんこく（現在の佐賀県・長崎県ながさきけん周辺）の谷口安左衛門兼品やぐちやすざえもんかねしなです。

言い伝えでは、ある年、日照りが続いたので池島という場所いけしまで雨乞いあまごをしていたところ、たちまち黒い雲が出てきて暴風雨が吹き荒れたので人々は舟ふねに乗って逃げかかりました。しかし、一隻の舟いっせきが沈んでしまったため、一緒に乗っていたこの半鐘も海に落ちてしまったと伝わっています。



スター

江戸時代に向陽寺は、
向陽軒という名前だったんだって



あむら おど 阿村がたきり踊り

(松島町阿村 昭和58年指定 市指定無形民俗文化財)

阿村がたきり踊り「あむらがたきりおどり」は松島町阿村地域に伝わる八代の「おざや新地」の干拓(海を埋め立てて地面をひろげること)事業の様子を表現した新地節と呼ばれる歌と踊りです。また、歌詞には阿村の女性である「お菊」と現場監督である「台場どん」との恋愛が歌われています。

八代では「おざや新地」を造るために大規模な干拓事業を行っていました。阿村からは「花壇にすえて花と見比べてみたい」と歌われるほど美人で気立てのよい働き者の「お菊」という女性を含めた300人ほどが工事を行うために八代に向かいました。お菊は台場どんと恋に落ちます。しかし、台場どんには奥さんと子どもがいました。そんな2人の仲を作業中に、はやし立てて歌われたのがたきり踊りです。

お菊さんは阿村に帰った後に
別のひとと結婚して幸せに暮らしたよ



シオマネキン(メス)



あいつじんじゃししまい
合津神社獅子舞

(松島町合津 昭和58年指定 市指定無形民俗文化財)

合津神社獅子舞「あいつじんじゃししまい」は、松島町合津の合津神社の境内で行われる約150年前から伝わる獅子舞です。元文5(1740)年頃、細川興文が宇土の西岡神社に獅子舞を奉納(神社に納めること)しました。まつっている神様が、合津神社と同じであるという共通点から合津神社でも獅子舞を行うようになったといわれています。

キリシタン追放のために、農民を喜ばせる秋祭りにする目的で行われていたのではないかと伝えられています。合津神社の獅子舞は、毎年10月19日に秋祭りの目玉として行われており、地域の人々や観光客に人気になっています。



上天草 四郎くん

うとはんしゅ ほそかわおきのり
宇土藩主だったの細川興文は、
はんざいせい た なお ちから つ
藩の財政を建て直すために力を尽くしたんだ



すがわらじんじゃかぐらだいいこおど 菅原神社神楽太鼓踊り

(松島町教良木 昭和58年指定 市指定無形民俗文化財)

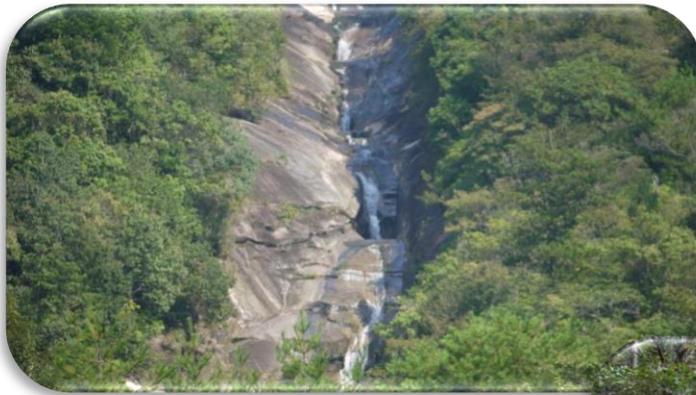
菅原神社神楽太鼓踊り「すがわらじんじゃかぐらだいいこおどり」は、松島町教良木^{つた}に伝わる神楽太鼓踊りです。宝暦7(1757)年に菅原神社の建物が完成したことを記念して神主さんの提案で伊勢神宮(三重県にある最も格の高い神社)に人を派遣し、神楽を学ばせることにしました。そして、伊勢神宮で神楽を学んだ人が菅原神社に神楽太鼓を伝えました。

大正時代までこの神楽は、「神楽氏」といわれる集団のみの「家代々譲り」制度で行われていました。しかし現在は、誰でも参加できるようになり、保存会が設立されて毎年10月第3日曜日に菅原神社の社殿(神社の建物のこと)前で地元の人々によって受け継がれた踊りが披露されています。



車えび吉

かぐら きげん あま いわと
神楽の起源は、天の岩戸の
にほんしんわ ちと
日本神話が元になっているといわれているよ



祝口観音の滝



近くから見た滝

いわいぐちかんのん たき 祝口観音の滝

(松島町教良木 昭和59年指定 市指定名勝)

祝口観音の滝「いわいぐちかんのんたき」は、松島町教良木にある全長300m、標高差80m、幅10～15mの滝のことで、この滝は、ウォーターライダーのようにゆるやかに流れるトコ滝と呼ばれる形状の滝です。滝の水は教良木ダムへとそそいでいます。この滝の途中には、粉洗や鼻の巣と呼ばれている大小さまざまな滝壺があります。

祝口観音の滝がこのような形状になったのは、滝周辺の地質が原因です。長い時間によって、地表に近い教良木層という、もろくて水で削れやすい地層が削れてしまい、その下の白岳層がと地表に出てきました。その後、堅く水で削れにくい白岳層が緩やかに削れたので、祝口観音の滝は、緩やかな流れの滝になったと考えられています。



パール

滝に沿った山道を登ると祝口の観音様があるよ。
観音様のご利益は安産と無病息災なんだって。



御手水の滝



遠くから見た御手水の滝

おちょうずのたき 御手水の滝

(松島町今泉 昭和59年指定 市指定名勝)

御手水の滝「おちょうずのたき」は、松島町今泉にある太郎丸岳の沢の水を水源とする全長2.5km、標高差15m、勾配(山の傾きのこと)40度の岩肌20mを带状に流れ落ちる滝です。この滝は、祝口観音の滝と同じく、ト口滝と呼ばれる緩やかな形状の滝です。滝の水は有明海へとそそいでいます。

滝の水は昭和30年ころまで、水車に利用されていました。滝の近くに住む人々はその水車
の力で精米や製粉を行っていました。

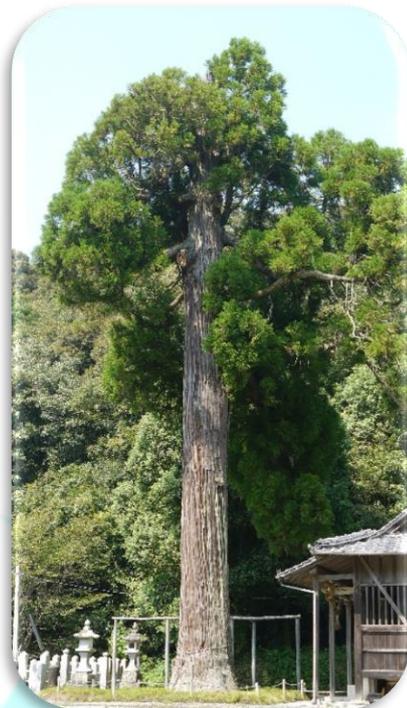


上天草 四郎くん

昔の人々は機械の力の代わりに自然の力を
利用して色々な仕事をしていたんだね。



正面から見た大杉



側面から見た大杉

す わ じん じゃ おお す ぎ
諏訪神社の大杉

(松島町今泉 昭和58年指定 市指定天然記念物)

諏訪神社の大杉「すわじんじゃのおおすぎ」は、松島町にある今泉諏訪神社の境内に生えている高さ約18.5m、幹の太さが約4.2mの杉の木です。この杉の木は樹齢約450年といわれていて、島原天草一揆の後に今泉諏訪神社が建立された際に植えられたものではないかと伝わっています。

平成10年に、昭和60年代の落雷による被害や、度重なる台風や大風等の影響によって木が弱っていたことから、地域の人々によって木を回復するための治療を行うことになり、樹木医によって、木の治療が行われました。その後は、現在の元気な姿を見せています。

今泉諏訪神社のご神体は不思議な流木から作られたといういい伝えがあるんだよ



ピース



野々川のモチノキ

(松島町教良木 昭和58年指定 市指定天然記念物)

野々川のモチノキ《ののかわのもちのき》は、松島町教良木の野々川公民館より西に100mほど離れたところに生息しているクロガネモチの木です。高さは約13.5mで幹の太さは約1.8mほどの樹齢約300年の木といわれています。庭木として人気のある樹木であり、その形の良さから過去に複数の買い手があったそうですが、持ち主の方が全て断って大切に保存し、現在まで守りました。

クロガネモチの木には雄株と雌株があり、雌株の方には秋には美しい赤い実がなります。5月～6月ごろに薄紫色の花が咲きます。



菜の花子

クロガネモチは、その名前から「お金持ちの木」と言われていて縁起のいいものとされているよ



当時の不知火塚の石材



当時の不知火塚の形を再現したもの

しらぬいづか
不知火塚（白縫塚）
 （松島町阿村 平成4年指定 市指定史跡）

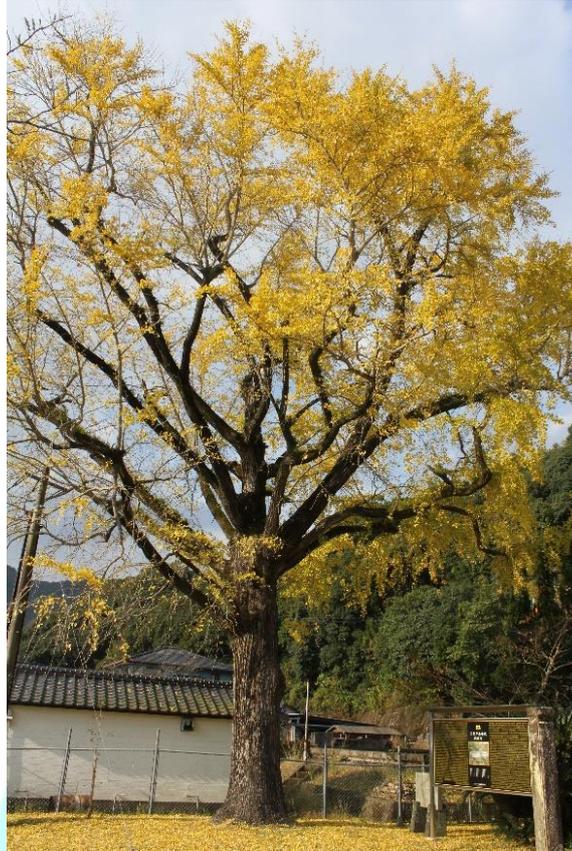
不知火塚「しらぬいづか」は、松島町阿村にある文学碑です。弘化2(1845)年に肥後の文人たちが、連歌の会を開いた際に詠まれた歌が刻まれています。当時は、高さ約 1.4m、幅約 4.5mの角の石材を組み合わせて3mになる石碑だったと考えられています。しかし、昭和の初めに大風が吹いて倒れてしまいました。そのため現在は、当時の歌が彫られた石材4つのみが残っており、地域の方が復元した碑が隣に建てられています

この石碑の歌には、景行天皇の九州巡幸時の神秘の不知火伝説や、白縫姫物語に関する歌が残されています。



上天草 四郎くん

石碑には「シキ」や「ウシブカ」など天草各所の歌人の名前が記されていて天草の歌人の交流があったと考えられているんだ



ふたまどしょうがっこうあとち 二間戸小学校跡地のイチヨウ

(姫戸町二間戸 昭和58年指定 市指定天然記念物)

二間戸小学校跡地のイチヨウ「ふたまどしょうがっこうあとちのいちよう」は、^{すいていじゆれい}推定樹齡300年、^{かんいやく}幹圍約5m、^{じゆこう}樹高約21.5mの二間戸小学校跡地に立つイチヨウの木です。旧姫戸町の^{ちやうぼく}町木に指定されていたこともありまし

た。この木は、^{きゆうふたまどむらしょうやたなかけ}旧二間戸村庄屋田中家の庭にあったものを、^{まえ}約200年前の^{めいじだいいしよとう}明治時代初頭に、旧二間戸小学校の^{ちゆうおう}中央に^{しょくじゆ}植樹されたものといわれています。^{へいせい}平成3年の^{たいふう}台風で^{みき}幹が折れる前は、^{こうぼく}約40mある高木でした。

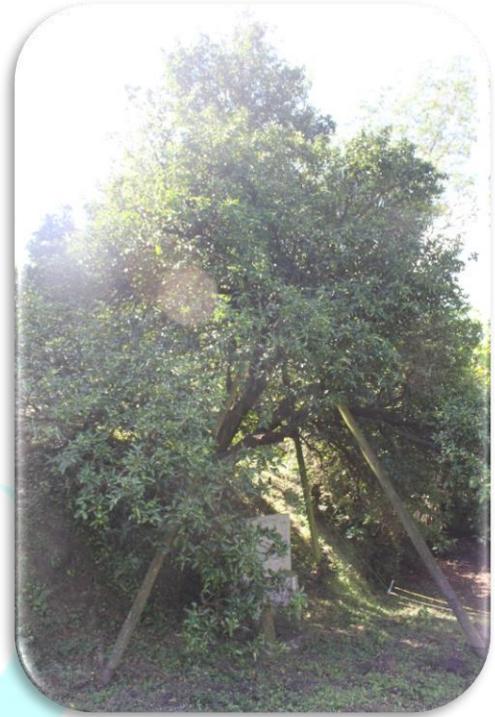


シオマネキン(オス)

イチヨウは^{きやうりゆう}恐竜の時代からある虫や火に^{つよ}強い木で、
^{いろ}色んなところに^う植えられているんだよ



タチバナの実



タチバナの木

やまだ 山田のたちばな

(姫戸町二間戸 平成4年指定 市指定天然記念物)

山田のたちばな「やまだのたちばな」は姫戸町二間戸にある推定樹齢130年、幹囲1.08m、樹高7.5mのタチバナの木です。初夏には香りの良い白い花を咲かせます。小型ミカンの原木としては姫戸町では唯一の木といわれています。昭和43(1968)年には熊本県緑化推進委員会から明治百年記念保存木として指定されました。

タチバナは日本固有の種であり、海岸に近い山地で自生することがあります。姫戸町にも古くから自生したのではないかと考えられていますが、現在はこの1本しかなく詳しいことは分かっていません。

タチバナは常緑樹でいつも葉が緑だから
永遠をたとえるということで人気の植物なんだ



上天草 四郎くん



開山塔



刻まれた「嘉吉二年」の文字

かいざんとう 開山塔

(龍ヶ岳町大道 平成9年指定 市指定建造物)

開山塔「かいざんとう」は龍ヶ岳町大道の^{なかぞのちく}中園地区にある^{せきとう}石塔です。この石塔は、大道の^{そのだぼちない}園田墓^{げんざい}地内^{ぼしよ}にあったものが現在の^{いてん}場所^{もともと}に移転されたもので、元々どこにあったかは分かっていません。龍ヶ岳^{てら}にあったお寺の敷地内^{しきちない}にあったものではないかと^{かんが}考えられています。

永享^{えいきよう}12年(1440)に上天草^{ちほういつたい}地方^{だいこうずい}一帯^{おそ}を大洪水^{なが}が襲い、お寺が流されてしまいました。そのため、安全な^{あんぜん}高台^{たかだい}に^{ぜんでら}禅寺^{さいげんきねん}を建設^{かぎつ}しました。開山塔は、そのお寺の^な再建記念^{さいげんきねん}として嘉吉^{かぎつ}2年(1442)に立てた石塔だと考えられています。上天草市^{ちゅうせい}では中世^{じだい}の時代^{めいぶん}の銘文^{ぶんかざい}をもつ文化財^{ぶんかざい}は少なく、石碑^ほに彫^ほられている嘉吉^{もつと}2年^{ふる}は最も^{めいぶん}古い時代^{すいそく}の銘文^{すいそく}の1つであると推測^{すいそく}されています。

大道^{ひがしうら}の東浦^{てらどこ}に寺床^{ちめい}という地名^{ちめい}があって、
その場所^{ぼしよ}との^{かんれん}関連^{してき}が指摘^{してき}されているよ



スター



おおさくやまぼうおど 太作山棒踊り

(龍ヶ岳町大道 平成4年指定 市指定無形民俗文化財)

大作山棒踊り「おおさくやまぼうおどり」は龍ヶ岳町大道地域に伝わる歌と踊りです。明治10(1877)年の西南戦争の際に地区の青年が薩摩(現在の鹿児島県)の武士に教えてもらった踊りがはじめとなっています。その後は地区で受け継がれて観音祭り等の郷土行事で披露されています。

しかし、昭和50年ごろに人手不足で踊りが一旦とだえてしまいました。その後、平成3年に踊り手にめどが付き、保存会の人々を中心としたメンバーが踊りを伝えて復活しました。平成4年に再び観音祭りで披露されました。



上天草 四郎くん

この棒踊りは、西南戦争のときに
色んなところに広まっていったんだよ



こやがわちししまい 小屋川内獅子舞

(龍ヶ岳町高戸 平成4年指定 市指定無形民俗文化財)

小屋川内獅子舞「こやがわちししまい」とは、龍ヶ岳町高戸に大正9(1920)年から約100年間伝わる獅子舞です。小屋川内青年団と倉岳町(現天草市倉岳町)の青年の交流がきっかけとなり龍ヶ岳町高戸にも獅子舞が伝わりました。赤と青の獅子舞と玉振りが笛や太鼓のリズムに乗って激しく踊るのが特徴です。

獅子舞は高戸神社の秋期大祭のときに奉納(神社におさめること)されます。奉納前には早朝から各家々を回り、獅子舞を披露して家内安全を祈願します。その他にも複数の神社を回るため、全部の訪問先を回るためには2日間かかります。



スター

獅子舞は天草の様々な場所で奉納されるよ
多くの町で秋祭りに奉納されるんだって



やまがみ いっぽんすぎ
山神の一本杉

(龍ヶ岳町高戸 平成9年指定 市指定天然記念物)

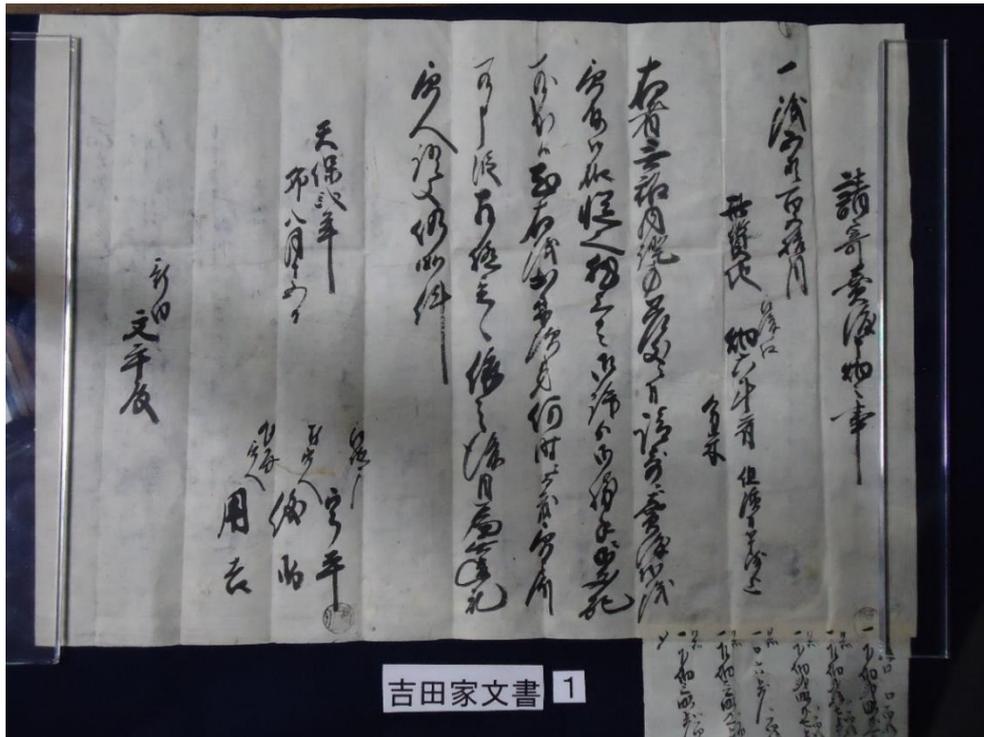
山神の一本杉「やまがみのいっぽんすぎ」は、龍ヶ岳町高戸の龍ヶ岳登山道に生息している杉の木です。高さは約30m、幹の太さ約6m、推定樹齢600年の大木です。幹の根元には祠が祀っております。

言い伝えでは、昔1人の修験者(山などの厳しい環境で修行する僧侶)がやってきて、一本杉の根元で寝泊まりしながら修行していました。里の人たちが気の毒に思い、そこに小屋を建ててあげました。修験者はその好意に感謝し、死ぬ間際まで村人の安全や健康を祈り続けました。村人はその修験者が亡くなったときに祠を建てて吊ったそうです。今では山の守り神として、祀られています。



きゅう はつし
 旧11月の初丑の日に
 やまがみ まつ
 山神さまのお祭りをするんだって

パール



おおじょうやよしだけもんじょ
大庄屋吉田家文書
 (大矢野町上 平成24年指定 市指定古文書)

大庄屋吉田家文書「おおじょうやよしだけもんじょ」は、江戸時代に天草の大矢野組（現在の大矢野町と松島町、天草市有明町の一部）の大庄屋と上村の庄屋だった吉田家に伝わる古文書です。大庄屋とは、組に属する村々を統括し、江戸時代の市長や警察署長等の役割を兼ねたような役職でした。吉田家文書は、そういった役職に就いていた吉田家に伝わった古文書です。大庄屋・庄屋としての業務や吉田家に関する様々な文書が含まれています。

文書の内容は「吉田家の経営や親族の由緒」、「吉田家が拠点とする上村に関するもの」、「大庄屋としての吉田家の状況や上天草の歴史的な特徴を示すもの」、「天草の幕府代官所や島内の有力者たちとの連絡の実情を明らかにするもの」など様々な内容のものがああります。これらは上天草市だけではなく、天草全体の歴史を振り返ることが出来る重要な資料です。



五橋博士

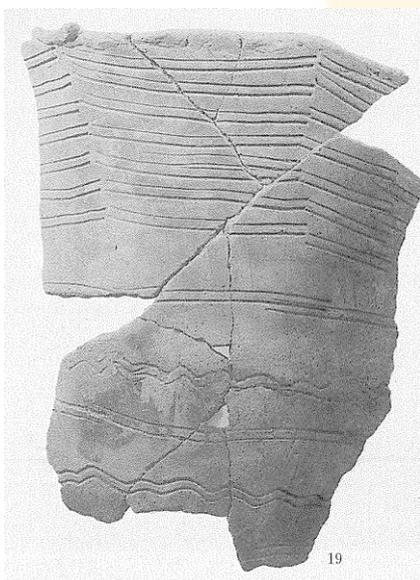
当時の天草の村は10組に分けられていて
 吉田家文書はそのうちの一つである
 大矢野組の古文書なんだよ。



ひろうらこふん 広浦古墳

(大矢野町維和 未指定文化財)

広浦古墳「ひろうらこふん」は、大矢野町維和にあったとされる装飾古墳です。石材には、太刀と刀子(細身の刀)や半円状の文様が彫られています。大正7年に発見されましたが、破壊されてしまいました。記録によると円墳(丸みのある山型の古墳)であったそうです。現在は京都大学と熊本県立美術館に広浦古墳の石材が保管されています。



小波戸遺跡で出土した
縄文時代前期の土器

こばといせき 小波戸遺跡

(大矢野町上小波戸 未指定文化財)

小波戸遺跡「こばといせき」は大矢野町上字小波戸にある縄文～古墳時代の遺跡です。この遺跡からは縄文時代前期の土器や石器、木製品などと中心とした遺物が出土しています。他には、古墳時代の製塩式土器も発見されていることから、小波戸遺跡で塩が作られていた可能性もあります。様々な資料を合わせると、出土遺物の数は300点を超えています。

当時の生活を示す資料も多く、小波戸遺跡は当時の人々の暮らしを知ることができる貴重な遺跡です。



いっちょ墓ばか
いっちょ墓
 (大矢野町湯島 未指定文化財)

いっちょ墓いっちょばかは、大矢野町湯島にある嶋原大變肥後迷惑しまばらたいへん ひごめいわくという津波つなみの犠牲者ぎせいしゃの墓ばかです。

この津波は寛政4(1792)年に起こり、長崎地方ながさきちほうと熊本地方くまもとに大きな被害ひがいをもたらしました。天草あまぐさでも約360名やく 360 せいにのぼる死者ししやが出ています。そのときの遺体いたいが湯島ながに流れ着いたので、このいっちょ墓つを立てることで弔とむらいました。



あまくさといし
 天草砥石
 (大矢野町各所 未指定文化財)

天草砥石あまくさといし「あまくさといし」は、大矢野町の一部で産出さんしゅつされる砥石なかといしです。中砥石なかといしとして有名で、主に農具のうぐの鎌かまや大工だいくのカンナかんななどの道具どうぐを研ぐとために使つかわれます。近年きんねんでは、美しい木目模様うつく もくめもようがに着目ちやくもくし、「木目石もくめいし」としてタイルたいるなどにも利用りようされています。江戸時代えどじだいから切り出しきりだしが行おこなわれていましたが、明治時代めいじじだいから砥石産業といしさんぎょうが盛さかんとなり、日本中にっぽんに売り出うされています。

現在いまでもその品質ひんしつの評判ひょうばんは高く、上天草市あまぐさを代表だいひょうする生産物せいさんぶつの1つです。



近くで見ただご石



遠くから見ただご石

だご石

(松島町今泉 未指定文化財)

だご石「だごいし」は松島町今泉にある白岳層の巨大な砂岩です。だご石を形成している白岳層は水や風に削られにくい硬い地層なのですが、長年にわたって少しずつ削られたため、現在のような形なになりました。

白岳層から採れる石は、合津石という良質の石材として加工されていました。



孝子喜左衛門の碑

(松島町今泉 未指定文化財)

孝子喜左衛門の碑「こうしきざえもんのひ」は、松島町今泉にある文久3年5月28日に建てられた喜左衛門の孝行をたたえた石碑です。

喜左衛門は評判の親孝行者で、その当時天草を治めていた島原藩の領主である松平主殿頭忠房の耳にもその評判が入りました。忠房は喜左衛門を自分の城に呼び出し、銀を褒美として与えたそうです。



うちのかわちじょうあと 内野河内城跡

(松島町内野河内 未指定文化財)

内野河内城跡「うちのかわちじょうあと」は、松島町内野河内にある城跡です。造られた時代は分かりませんが、鎌倉時代以降の中世期ではないかと考えられています。内野河内城の本丸跡の南側には、江戸時代初めに造られた石垣が残されています。



よこみち ごりんとうぐん 横道の五輪塔群

(松島町内野河内 未指定文化財)

横道の五輪塔群「よこみちのごりんとうぐん」は、松島町内野河内にある五輪塔群です。この五輪塔は内野河内城跡付近で発見され、組み立てられて現在の位置に安置されました。

発見場所の近くに内野河内城と関係のある寺があった可能性が指摘されていますが、詳しいことは分かりません。



ふたまどじょうあと 二間戸城跡

(姫戸町二間戸 未指定文化財)

二間戸城跡「ふたまどじょうあと」は姫戸町二間戸にある城跡です。城主は中世に活躍した二間戸氏と伝わっており、二間戸城と二間戸氏は、中世に活躍した戦国武将の相良氏せんごくぶしやう さがら がかが書いたとされる『八代日記』に記録が残っています。

現在の地名は「寺」といって、これはお城の中に寺があったことに由来するのではないかとされています。

しらたけしっち 白嶽湿地

(姫戸町姫浦 未指定文化財)



ハッチョウトンボ

白嶽湿地「しらたけしっち」は姫戸町姫浦の山、白嶽しらたけに広がる湿地のことです。ここには、日本一小さなトンボであるハッチョウトンボと日本一大きなトンボであるオニヤンマが生息しています。また、貴重な絶滅危惧種のヒモヅルの植生も見られます。

現在は、様々な珍しい生態系を形成している湿地となっていますが、以前は水田や畑として利用されていた土地でした。

ひめどまちしゅつど ませいせきふ 姫戸町出土の磨製石斧

(姫戸町二間戸遺跡など 未指定文化財)



磨製石斧「ませいせきふ」は、姫戸町で発見された石器時代に使用されていた石の斧です。右の石斧は二間戸遺跡から、左の石斧は工事現場から発見されました。これらの石斧は磨いて形を整えてあるため、磨製石器と呼ばれています。

姫戸町の他にも上天草市には、昔の人々が暮らしていた跡である遺跡が残っています。そういった遺跡からはこのような遺物が発見されます。



せっかいがま 石灰窯 (ひやがま、ひゃーがま)

(姫戸町二間戸運動公園横 未指定文化財)

石灰窯「せっかいがま、ひやがま、ひゃーがま」は、姫戸町二間戸にある江戸時代から続く石灰産業において、石灰を焼いていた窯跡です。江戸時代後期に、石灰は、肥料や虫よけとして使用され始めました。その後、時代が進むとセメントの原料として使用されるようになりました。

しかし、水不足などの要因が重なって工場が海外への移転などでなくなってしまい、窯跡だけが残っています。



とん はか との はか 殿の墓 (殿どんの墓)

(龍ヶ岳町大道赤崎 未指定文化財)

殿の墓「とんのはか」は、龍ヶ岳大道にある平安時代～鎌倉時代初期の武将の墓であると伝わる石造物です。源平合戦の際に天草に逃れた平家の武将が追手の源氏の武将との戦いで亡くなり、その霊を弔うために作られたと伝わっています。

龍ヶ岳町には、他にも平家伝説に関わるものが数多くありますが、詳しい関係性は分かっています。

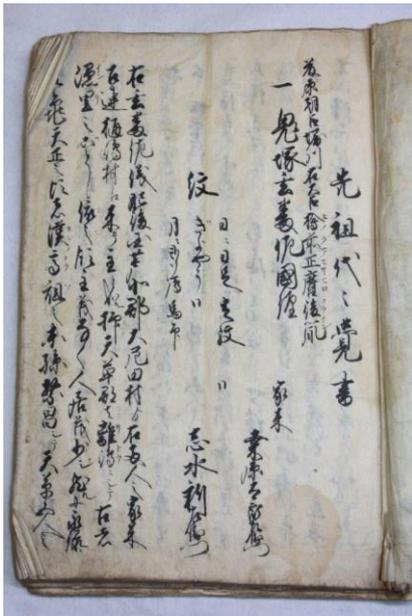


ひのしま かせき 槌島のアンモナイト化石

(龍ヶ岳町槌島 未指定文化財)

槌島のアンモナイト化石「ひのしまのあんもないとかせき」は、龍ヶ岳町槌島の姫浦層から発見されたアンモナイトの化石です。アンモナイトは、古生代から中生代に生息していた頭足類と呼ばれる生物です。現在のタコやイカの先祖だと考えられています。

龍ヶ岳町には化石が発見される地層があり、そこからはイノセラムス(二枚貝の一種)の化石などがよく発見されます。



ふじたけもんじよ 藤田家文書

(龍ヶ岳町樋島 未指定文化財)

藤田家文書群「ふじたけもんじよ」は、龍ヶ岳町樋島にある藤田家に所蔵されていた古文書です。藤田家は
大庄屋という職に就き、砥岐組(現在の龍ヶ岳町、姫戸町、倉岳町、御所浦町一帯)を治めていました。

藤田家文書には、江戸時代から明治時代までの天草と砥岐組の政治に関わる物から個人的な物まで幅広い古文書が含まれています。

藤田家の先祖のことを
記した古文書



かんじょうじ 観乗寺

(龍ヶ岳町樋島)

観乗寺「かんじょうじ」は、龍ヶ岳町樋島にある浄土真宗の寺院です。元の名前は、願乗寺とい
いましたが、後に観乗寺に改名しました。

始まりは慶長9(1604)年といわれています。大庄屋の藤田家に関わる寺社として、長い間
戸籍の管理を行っていました。

また、「御消息」と呼ばれる12代准如が書いた書状が保管されています。この書状は「御書様」
として大切に保管され、毎年11月に天草中の様々なところで披露されます。

上天草市の文化財

発行年月日 令和3年7月22日

発行 上天草市教育委員会 社会教育課

上天草市松島町合津 7915 番地 1

TEL 0969-28-3361



上天草市
KAMI AMAKUSA